

平成28年11月15日発行

KKOSI  
KKOSI  
KKOSE  
KOSER  
KOSEK  
OSEKA  
OSEKA  
SEKAI  
EKAI  
EKAI  
KAIRI  
KAIRI  
AIRIK

2016年

1

年4回発行(1. 4. 7. 10月号)

No.1072

(学法) 日本力行会

RIKKO SEKAI No.1072 力行世界 平成28年11月15日発行 (1)

力 水 離

# R I K K O      S E K A I



(りっこう幼稚園新園舎 鳥瞰図)

創立1897年1月1日



## 目 次

新園舎落成記念式典	2・3	力行サロン	8
力行会館台灣同窓会	4	茶道・Farewell Party	
八雲神社大祭	5	島貫兵太夫初代会長及び	
りっこう幼稚園だより	6・7	永田稠二代目会長のお墓について	9
納涼会・敬老会		留学生 国際交流	10・11
運動会・さんまつり		事務局だより・会員案内	12

# 「りっこう幼稚園新園舎落成記念式典」

## —新園舎完成に、園児達が関係者へ元気いっぱいの感謝の言葉—

当会学校法人認可後の最重要事業として進められていた、旧園舎の老朽化及び耐震化対策として昨年7月より実施されていた「学舎プロジェクト」の第一段、「りっこう幼稚園新園舎建設」が今年9月末に新園舎及び園庭整備他全てを終えてようやく完成、これを記念して去る10月19日（水）、「りっこう幼稚園新園舎落成記念式典」が新しくなった幼稚園礼拝堂にて、園児及びPTA役員、工事関係者、当会関係者他多くをお迎えして執り行われた。

角井副園長の司会で式典は開会され、尾山牧師による礼拝では、力行会のエンブレムを「楯」に災いや障害を

「矢」とした園児がこの「りっこう幼稚園」のエンブレムという楯で神様に守られている存在であることを大変わかりやすく説明された。続く村上理事長の挨拶では、特に新園舎完成までに至る多くの方々の努力とご支援に謝意を述べると共に、完成した新園舎を通じて多文化共生社会と世界に貢献できる園児（貴方こそ力行の礎たれ）が多数輩出される為の努力を惜しまないことを述べられた。

なお、今回の落成記念式典開催の趣旨は、園児が新園舎建設に携わった多くの方に感謝を述べるセレモニーを実施したいという意向の元で挙行され

た為、特に施工管理を担当された横山設計事務所と建築施工を担当された立花建設に当会より感謝状を、園児代表より両者に大きな花束を贈呈すると同時に、「ありがとう」という園児達の大きな声で感謝の言葉が述べられ、大変会場が和やかな雰囲気のもと、無事式典は終了、その後は来賓の方々に新園舎の見学会等を実施した。

今回の落成記念式典開催に当たっては、大変多くの関係各位に御理解とご協力を頂きましたことをここに御礼申し上げます。





(村上理事長挨拶)



(尾山牧師礼拝)



(横山設計事務所感謝状)



(立花建設感謝状)



(園児からの花たば贈呈)



(園児合唱)



(新園舎全景)



(彫刻「りっこうの森の動物達」と東屋)

## 力行会館及び力行国際学院JMA日本語学校同窓会、 台湾・台北市にて開催

**—懐かしい顔触れとの再会に、当会からも役職員2名が出席—**

当会の今年度の重点事業とされていて、力行会館元会館生との交流強化について、先日、台湾の力行会館台湾同窓会の代表、簡 俊光氏（当会元職員）及び力行国際学院JMA日本語学校台湾同窓会の代表、余 美慧氏（元りっこう幼稚園教諭）より、7月31日（日）に台湾・台北市にて合同同窓会を開催する旨と当会関係者の参加を促す招待状が届き、対応を協議した結果、事情をよく把握する役職員の派遣が適当との見解から、上原富美哉評議員及び田中直樹事務局課長が同会に出席、当日は30名余りの同窓生達と有意義な懇談を行った。

かつて当会敷地内に存在した、力行国際学院JMA日本語学校の生徒の大半が当力行会館居住者であるということから、今後の会館活動の活性化には、彼等との交流は不可欠。すでに学校の最も盛んであった時期より20~30年の月日が経過し、間もなく彼等の子弟が留学をする状況となることから、今一度彼等との絆を強固にし、少しでも彼等子弟が日本へ留学する場合、当力行会館が「第2の故郷」となり、自身も元会館生であったことを再認識して頂き、そのためのメリットと誇りを思って頂きたく、今回の台湾同窓会へ出席の運びとなった。

7月31日（日）午後1時より、台湾・台北市郊外の中華料理店にて開催された同窓会には、地元台湾のみならず、遠くはタイのバンコクよりこの日のために参加者が集結。およそ30名余り一堂に会して同窓会は、力行会館台湾同窓会代表の簡氏より、本日の開催経緯と目的を説明、乾杯の挨拶を持って宴はスタート。参加者一人一人が自己紹介と、力行会館や日本語学校の想い出

と共に現況報告。その後、上原評議員より、本日の同窓会のご招待に力行会より代表として感謝の言葉を述べ、今後のさらなる結びつきをお願いし、当会も全面的に協力する旨を述べた。引き続き、田中職員より、久々に懐かしい顔触れの皆さんとお会いでき本当にうれしく、今後とも、皆さんのみならず、間もなく留学の年齢を迎えるであろうご子弟の方と共に、是非とも「日本の我が家」のごとく力行会館を利用して欲しい旨を述べさせて頂いた。

参加された元留学生達は、子弟の日本留学に大変関心を持ち、当時自らも苦労させられた異国での生活の場所について、やはり多くの問題があることを指摘。このタイミングで参加者の日本の故郷でもある力行会館の現状報告と、生活場所の紹介は大変強い関心を示し、今後大いに利用されることは間違いないし、と強い印象を感じた。

なお、今回の台湾同窓会の企画から実施まで短期間であったため、本来なら参加を強く希望したマレーシア同窓生や香港同窓生他、他の会館出身留学生からも今回の同窓会開催の事実を認知すると共に、お祝いの言葉も多数届いたため、次年度以降、開催に当たっては早めの告知を行うこと、今回の絆より、より多くの元会館関係者への連絡を取ることなどを参加者全員で了承した。さしあたり、次年度開催予定は、タイのバンコクかマレーシアとし、詳細決定後は当会もホームページ等で告知協力することとした。

また、来る11月23日（水）の「力行会創立120周年、幼稚園創立70周年記念式典」には、台湾代表として、台湾同窓会代表の簡 俊光氏に正式に招待状を送る旨を報告、前向きに参加検討

するとのことであった。

力行会館の日本館及び国際館が新たに建設され早や30年近くの月日が経過し、その間、多くの留学生がこの会館を日本での最初の生活の場として勉学に勤しんだ。まさにその世代が家庭を持ち、子弟が育ち、今その第2世代が留学の時を迎えている。当会は改めて、その歴史と使命、そして「力行会」の将来への存在意義がこの事実から容易に見いだすことができると再認識できた、大変貴重な台湾訪問であった。

台北でお会いした元会館生及びJMA日本語卒業生の皆さん、本当に貴重な時間と体験をありがとうございました。感謝

### (お願い)

この記事をご覧になられた力行会関係者の皆様へ。今後とも多くの各国同窓会組織を結成し、絆の強化及び多彩な国際交流事業を今後も当会として展開していく予定であります。つきましては、読者以外で元力行会館に在住されていた方々の消息をご存じでしたら、是非とも当会事務局まで御連絡頂きたくお願いする次第です。

### (御連絡先)

〒176-0004 東京都練馬区小竹町

2-43-12

学校法人日本力行会 事務局宛

(TEL) 03-3972-1151

(海外からは81-3-3972-1151)

(FAX) 03-3972-1151

(海外からは81-3-3972-1264)

(E-mail) rikko@rikkokai.or.jp

皆様の御連絡を心よりお待ちしております！



# 八雲神社例大祭 みこし担ぎ書き

去る9月11日、2年に一度の町内会主催の八雲神社例大祭がありました。力行会からはみこし担ぎに参加しました。

みこしの担ぎ手には会館生からは5人参加してくれました。そして武藏大学に通う会館生のコーディネーターであるISAのナーヤさんも参加されて、全6人、なんと担ぎ手は全員女子になりました。ハッピの一式をお借りし、町内会の方々よりお借りして準備万端。ひょっとこおじさんの船頭にして、あいにくの雨模様の船出となりましたが、雨を吹き飛ばす熱気でみこしを担ぎだしました。

おしゃいへしゃいで、次第に皆は大汗が流していました。

「わっしょいと言っているの？」初めて聞く祭りの掛け声に、こんな質問が会館生からでました。掛け声の言ひ方を知って、次第に女子会館生も掛け声を上げるようになりました。

見た目には控えめのサイズのみこしですが、見た目以上にずしりと肩に響きます。

担ぎ手の男性が少ないので、一人あたりにかかる重さはかなりのもの。担ぐのが苦しくなってきたら、他の担ぎ手とすこし位置を交換するなど、担ぐ間にさまざまな協力が必要なのがみこし担ぎ。町内にすむ様々な方が、お住まいの窓からドアから顔を出して、声援をおくってくださいました。

朝から夕方まで、町内を大きく一周します。その間に休憩が4度入ります。1度目は日本大学芸術学部の一角で、飲み物が振る舞われました。2度目は、小竹小学校のグラウンドでお昼ご飯、お赤飯と飲み物が振る舞われました。3度目は、我が力行会館の目の前にある小林様宅の庭で本当に豪勢なお食事を振る舞って頂きました。お昼のお赤飯のおかわりをした人は、控えるべきだったと誰もが思った瞬間です。

休憩もつかの間、再度、重い体を持ち上げ、担ぎ始めます。

しばらくして4度目の最終休憩地の江古田斎場が見えてきました。何とそこでも、多様なお菓子の数々を振る

舞って頂きました。

担ぎ手の会館生は、こんなに多くの方々の声援とご協力を頂いたことに感動しておりました。

町内会のご活動は、こうして日本文化を外国人にも日本人にも継承しております。日本文化を海外から来たる留学生にも伝え、草の根で日本人に対しても日本文化を継承して下さっていることに深く感謝致します。

最後に、この場をお借りして、今回の八雲神社例大祭のみこし担ぎに当たりましては町内会の皆さん、ハッピを貸して下さった方々、みこし担ぎの休憩時間のお食事を用意して下さった皆様、その他にもここに書ききれない多くの方々に厚く御礼を申し上げます。



# りっこう幼稚園だより

## 納涼会

もも組担任 根橋 由衣

8月31日、新しい園庭で納涼会を行いました。「〇〇色の浴衣着るんだよ!」「夜の幼稚園楽しみだね!」「盆踊り早くやりたいなあ…」と朝からわくわくする子どもたち。降園する時には「またあとで幼稚園で会おうね。」と友だちと笑顔で手を振り挨拶を交わす微笑ましい姿もありました。夕方に

なり、園庭にちょうどちんが点くと、浴衣や甚平を着ておめかしした子どもたちがお土産券を大事に持って幼稚園に集まります。いつもと違った雰囲気にして少し恥ずかしそうに照れる様子がありました。先生たちからお土産をもらうと嬉しそうにっこり。そしてやぐらの周りにクラスごと集まると、盆踊りがスタートです。お部屋で練習していた時とはまた少し違った雰囲気の中で、太鼓の音色と共に友だち、おうち

の方と踊る楽しさ、喜び…様々な思いを感じられたように思います。最後には、打ち上げ花火、ナイアガラの花火を観賞し、「すこーい!」「きれい!」とキラキラ目を輝かせ、みんなが一体となる掛け声が園庭に響き渡っていた納涼会でした。在園児にかぎらず、おうちの方、未就園児・卒園生を含め、皆すごしたこのひとときが、心に残る素敵な思い出となっていることを願っています。



## 敬老会

すみれ組担任 唐沢 美海

9月14日。心配されていた天候も崩れることなく、大勢のおじいさま・おばあさまを招いて敬老会を行いました。朝、礼拝堂では園長先生とおじいさま・おばあさまとの全体を行いました。その頃の保育室の子どもたちは「一緒に歌を歌いたい!」「みんなでおやつを食べるんでしょ?」と心待ちしていました。おじいさま・おばあさまが保育室へいらっしゃると少し恥ずかしそうにはにかんだり、手を振ったり、「いっぱい来てくれた!」と嬉しそうに話したりと子どもたちの様々な表情がみられました。おじいさま・おばあさまに自己紹介をして頂いた後には歌を歌ったり、一緒に手遊びをしたり、おやつのゼリーを頂いたりと和やかな笑顔が広がるひとときを過ごしました。

降園前には絵本を読んで頂く機会を持つことができ、真剣な眼で絵本の世界に入り込む子どもたちの姿が印象的でした。

子どもたちはおじいさま・おばあさまと一緒に過ごす中で人と触れ合う心地良さ

を味わっているのが伝わってきました。これからも沢山の方々に大切に思われ、見守られていることへの感謝の気持ちを忘れずに過ごしていってほしいと思います。



## 運動会

ゆり組担任 松本 菜摘

10月10日、新しくなった園庭で初めての運動会を行いました。園庭での練習も限られた中で一生懸命、友だちと共に練習に取り組んできた子どもたち。

初めての運動会に緊張と期待に胸を膨らませながら素敵な笑顔をたくさん見せてくれたももぐみ。入場行進、かけっこでは精一杯腕を振り、玉入れ・



リズムではおうちの方と一緒に運動会の楽しさを味わいました。

毎日お弁当後に行ってマット運動の練習、積み重ねてきた力を出しきり臨んだマット運動をはじめ、友だちと力を合わせた綱引きなど一人ひとりが力いっぱい取り組んでいたすみれぐみ。

そして、組体操・プレイバルーン・リレーなど憧れていた競技を今度は自分たちで作り上げ、毎日の練習にも友



だちと共に強い気持ちを持って取り組み、当日頼もしい姿を見せてくれたゆりぐみ。どの子からもやる気が満ち溢れ、真剣な表情で力を出しきる姿が見られ胸が熱くなりました。

どの学年も沢山の声援と拍手をもらい、笑顔でいっぱいの子どもたちの姿が印象的でした。自分の力を精一杯出しきり、友だちと心をひとつに取り組んできた子どもたち。この歩みがあるからこそ味わえる「達成感」を感じることができた1日となりました。運動会での経験が自身の力や糧になるように、また自信となって今後の成長に繋がるように願っています。沢山のご声援ありがとうございました。

## さんまつり

もも組副担任 辻 恵美子

10月21日、青く澄んだ空の下、幼稚園でさんまつりを行いました。お部屋の集まりで、秋が旬のおいしい食べ物の話をしていた子どもたちはこのさんまつりをとても楽しみにしていました。当日の朝、千葉県の銚子から送られてきた380匹のさんまに興味津々…。ひらきになっている状態のさんまに「どうやって泳いでいたのかな?」「骨がいっぱいだね」とお友だちとの会話も弾んでいました。お手伝いのお母様方がいらして下さり、コンロを7台使って一斉にさんまを焼いてくださいました。青い空に立ち登るさんまの煙と一緒にさんまの焼けるいいにおいが、幼稚園いっぱいに広がりました。さんまの油が火に落ちて燃え上がる様子を外遊びを中断して見入っている子、「早く食べたいね」とお弁当の時間が待ち遠しい様子でした。年長組は



丸々一匹。年中組は骨のある半身を、年少組は骨のない方の半身をいただきました。炭を使って焼いたさんまは、こうばしくて特別な味のようでした。おいしいさんまに子どもたちもうれしそうな笑顔がいっぱいでした。きれいに骨だけを残し「これはママへのお土産にしよう」と大切に持ち帰る姿もありました。秋の実り、命の恵に感謝しながらお友だちと一緒に食べたさんまの味は、子どもたちにとって忘れられ

ない思い出となった事でしょう。これからも神様の恵みに感謝しながら毎日を過ごしていきたいです。



# 力行交流サロン

## 茶道交流会

去る10月22日（土）力行国際交流サロンで、毎年、お世話になっている立教大学の7名の茶道部員の皆様にご尽力頂き、恒例の「茶道交流会」を開催しました。

当日は、当会館・日本館の和室を会場に、サロンスタッフの空花様、大矢様、小澤様と息子様のご協力のもと、中国、ブルネイ、ブラジル、台湾、タイ出身の会館生が参加しました。

お茶会は、2回に分けて行われ、各回共、食堂で受付後、茶室に席入りする形で、進行しました。

急病で不参加の人、飛び入り参加の人もいましたが、参加者は全員、時間通りにきちんと集まり、スタッフの方々も迅速にご対応下さり、茶道部員の皆様からも温かいご対応を頂き、お陰様で滞りなく進行する事が出来ました。

今回の参加者は、茶道に深く興味を持っている人ばかりで、退席後のアンケート記入が終わった後も、サロンスタッフに茶道に関する様々な質問をしている姿を見られたので、安堵し、嬉しく思いました。

今回の開催にあたり、お世話になった皆様へ、誌面にて、お礼をお伝えさ

せて頂きます。今後共、暖かいご支援の程、お願い申し上げます。又、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、参加の会館生より、頂きました茶道の感想についてのアンケートの一部を、紹介させて頂きます。

\*\*\*\*\*

(順不同)

●特に印象に残ったのは、お茶を飲む時、右手で手前に2度まわしていることである。おもしろいです。静かにお茶を飲むことは気持ちいい。

●おもしろいんですけど、正座がちょっとむずかしい。おかしがあまり。

●心がおちついていて、やり方も本格的に、和の心が感じました。特にお茶の飲み方が丁寧的な。

●It was amazing and beautiful. Very respectful and polite way of drinking tea. Then, it shows nice Japanese culture.

●Every steps are so nice! Good experience and new knowledge.

●It's nice. A good and beautiful experience. I learn something



interesting.

- It seems the tea ceremony is a very special date.
- お菓子とお茶がおいしかったです。
- 茶道のやり方はすてきとおいしかったです。大学生たちもやさしい人たちでした。



催しようとの呼び声をサロンスタッフの大矢様より掛けて頂き、事務所の夏期休暇前の7月29日（金）に開催致しました。

当日は、会館生25名、交流サロンスタッフ7名、役職員他9の総勢41名が参加し、大変、賑やかで、楽しいサロンとなりました。

会場の設営、お手製のサンドウィッチやオードブルなど、心のこもったおもてなしを管理人の松井ご夫妻より頂き、唯々、感謝の気持ちで一杯です。

事務所からは、地元のケーキ屋さんにご協力頂き、生菓子や焼菓子を用意、特に、今回は、ベネズエラの悠樹君のお誕生日を祝いたいとの皆の熱い思いに答え、バースディケーキを用意しましたが、親

御さんの下から離れ、異国で初めて迎えたお誕生日、皆からの祝福に答え、本人からお礼のスピーチもあり、若い皆の温かい気持ちに感動しました。

今回の交流サロンが盛会となりました事、帰国、進学する会館生達と気持ち良くお別れし、又、再会の約束を出来た事、スタッフの皆様、参加、協力してくれた会館生達にお礼をお伝えし、次回の交流サロンに繋げて行きたいと存じます。



## Farewell Party

夏空がまぶしい季節となり、幼稚園も会館生も夏休みに入りましたが、一部、会館生とのお別れの季節となりました。今回は、恒例の「Welcome Party」を倣い、「Farewell Party」を開

## 島貫兵太夫初代会長及び永田稠二代目会長のお墓について

当会は来年創立120周年の二度目の還暦を迎える、ある意味三度目の人生のスタート地点に立っていると言えるのではないかと思われます。

そのような貴重な時を迎えるに当たって、今一度当会の歴史を振り返るために、当会先駆者のお二人の功績を正しく理解すると共に、その足跡をたどることが一番大切と感じ、今回、島貫兵太夫初代会長及び永田稠二代目会長が眠るお墓についてご報告いたします。

現存する当会資料の中では、これらのことについて詳しく記述されている物がないだけでなく、ともすればその場所すら紹介されていなかったのが現状です。当会としては、次世代に継承するために、ここにお二人の先人のお墓の場所と現状についてご報告することで、今後の当会の発展と継承のきっかけに繋がることと切に望みます。

### (島貫兵太夫初代会長のお墓)

島貫初代会長は1913（大正2）年9月5日、鎌倉の静養地にて肺炎にて逝去、同月9日自宅にて告別式が実施され、都内巣鴨にある「都立染井霊園」（詳細位置は1種（イ）8号2側2番）に埋葬された。墓碑の題字は、島貫がキリスト教信者となるきっかけを作った



島貫会長のお墓

仙台神学校（現在の東北学院大学）時代の恩師、押川方義氏によるもの。

戦後の国際学寮が存在する時点まで、多くの寮生が島貫会長の清掃を兼ねて墓参をされていたが、その後現在までは、特に関係者の大がかりな墓参も実施されておらず、昨年逝去された島貫会長の孫に当たる島貫兵太元理事長が生前まで同墓地管理者であったため、その継承者である親族の方が現状及び管理継承されるかは不明。ただし、管理者不在の場合、五年後には墓碑は撤去され、都営の共同管理墓地に遺骨は移動される予定。

「都立染井霊園」は多くの著名人が

埋葬されおり、そのリストも作成配布されているが、あいにく島貫会長墓地は記載されておらず、関係者訪問の際、偶々発見でき、管理者不在となっていたためか、墓碑回りは草ぼうぼうとなっていたため、清掃とお花を供えて参りました。

### (永田稠二代目会長のお墓)

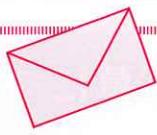
永田稠二代目会長は1973（昭和48）年1月2日、力行会内自宅にて心不全にて逝去、同月3日力行会にて納棺式が実施され、本人の希望通り、ブラジルのアリアンサ移住地に一部分骨埋葬、残りは東京都府中市にある「都立多磨霊園」（詳細位置は12区1種18側5番）に埋葬、墓碑の題字は、「永田家墓」とあり、先日逝去された稠二代目会長長男の永田泉元理事長もここに埋葬されている。

現在同墓地の管理は、永田泉元理事長ご子息の永田伝氏がされており、関係者訪問の際も清掃管理されていたため、お花のみお供え墓参させて頂きました。

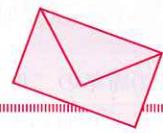
尚、永田二代目会長のお墓は前述の通り、本人の意向に基づき、ブラジルのアリアンサ移住地分骨され、現在・同第1アリアンサ地区頌徳公園内に永田会長の立派な墓碑が建立されています。



永田会長お墓



## 会館生からのお便り



### 力行精神を考える

橋 正克

(力行渡航講習生、当会員&力行ボランティア)

タイの首都バンコクで高速鉄道パー  
ブルラインを日本企業が受注しまし  
た。入札公示から独シーメンスの独占  
を崩し、日本が契約を勝ち取った決め  
手は地元ゼネコンの会長、プレウ氏  
(71) の働きかけでした。

彼は大阪大学に留学し、東京五輪や  
大阪万博を見聞。「日本の発展や技術  
力に驚き、ここに私の夢の原点があつ  
た」と語っています。その日本びいき  
のプレウ氏の助言によって今回の鉄道  
の開業に漕ぎつきました。

丸紅のヤンゴン支店長は「日本ファン  
を増やすことの大切さを考えさせら  
れた」としみじみと語っています。

これは、今年8月に掲載された新聞  
記事の要約である。この記事のキー  
ワードは“日本びいき”です。プレウ  
氏が日本で学び、日本への尊敬とあこ  
がれを持った点です。

現在、日本力行会には多数の留学生  
が日本で学んでいます。彼らは日本に  
とって貴重な財産と言っても過言では  
ありません。プレウ氏のように彼らが  
“日本びいき”になって彼らの夢の実  
現の手助けをすることが大切と考えま  
す。私個人としては、数学を長年指導  
してきた関係から受験数学のお手伝い

しかできませんが…。

留学生に日本文化を理解してもらう  
ことは大切です。海外の人と較べて日  
本人はコミュニケーション、ディベイ  
ト及びプレゼンテーションの努力不足  
が見られますが、他方、“和の心”をベ  
ースとした“誠実な文化”があります。  
しかし、日本への尊敬は文化のみなら  
ず、結局は人と人との関係に帰着する  
と思います。

かつて、永田稠先生（2代目会長）  
は“コーヒーより人をつくれ”と言わ  
れました。私は、この「人」を他人を  
指すだけでなく、自分自身を含めてい  
るよう思えてなりません。自分自身  
を高め、留学生に尊敬・感謝されるよ  
うな人間になること、これこそが真の  
“日本びいき”になると言えるのでは  
ないでしょうか。

### (退館した会館留学生からのおたより)

Dear Rikko OFFICE,

First of all, I'd like to say thank you for  
everything you have done for me. Throughout these  
5/6 months in Japan, thank you for taking care  
for all of us exchange students!

困ったとき、助けてくれたりしました。  
心から感謝します！

みなさん、あそびにマレーシアへきて  
ください...

Here is a pack of famous coffee from Malaysia. どうぞ～  
please enjoy !

留学生 [マレーシア]

アリソン ALYSON NG

Hello Office Members of Rikko!

First of all, I am sorry about  
the letter in English, but maybe,  
somebody will be able to translate  
it.

I am also sorry, because I thought  
I would be able to say goodbye, but  
due to the internship, I left Rikko  
this morning (Aug. 22th).

I will only go back to Brazil on  
Sep. 5th, but I don't know if I can  
come here again to see you.

I would like to say thank you for  
everything! I appreciated to stay  
here during these months.

I am leaving the key of my room  
with this letter.

Besides, there is an "おみやげ"  
from Brazil. It is a little mug  
for decoration, I hope all of you  
like it.

ありがとうございます！

Stefany Tiemi 三

# 力行会ブラジル研修生、 今年もブラジル力行会の歴史講義を受講 —講師はNPO「現代座」の木村快氏をお招きして実施—

ブラジル力行会の要請で当「りっこう幼稚園」研修生として派遣されているブラジル研修生達は、帰国後、いかに「ブラジル力行会」の事業に関わるかと言うことに鑑み、是非とも来日中に関係者からブラジルと力行会との関わりについての講義を依頼されており、今年も去る9月14日（水）と21日（水）の2回公演で「アリアンサ移住地と力行会」をテーマに、講師として、NPO現代座代表の木村快氏をお招きし、大変興味深い講義を行い、参加した2名のブラジル研修生達からも大変好評を得た。

木村快氏は、40年前から芸術を通してブラジルの日系移住地、特に芸術活動で有名なユバ農場のあるアリアンサ移住地と永年交流があり、自身の劇団もブラジル全土で公演し、多くの日系の方々から賛同を得、依頼、ブラジルにおける「アリアンサ移住地」の歴史

において自費出版、2年前にはニッケイ新聞を通じてポルトガル語版も出版され、ブラジルの日本人移住史についても多方面からの分析とフィールド調査をしたことで造詣が深い。

当会とは、古くから当会蔵書及びアリアンサ移住地との関わりがあり、3年ほど前より、ブラジル力行会の要請に基づき、ブラジルと力行会に関する歴史講義をお願いしたところ、快くお引き受け頂き、今日まで続いている。

今年の研修生2名は、1990年代からブームとなった「デカセギ」移民に由来するため、両名共に自分のルーツと言うことには大変興味があるため、講師の木村快氏も、その調査方法や起因などを事細かく教示でき、今までにはない形での講義に大変興味深い感想そして、ルーツを知ることでの研修生の将来の礎にもなり、今後も同講義が継承される必要性がさらに高まったと言

えよう。

多忙な中、貴重なお時間を割いての講義を申し出頂いたNPO現代座代表の木村快氏に心より御礼を申し上げます。



## ブラジル料理 ☆☆コシーニヤの作り方☆☆

りっこう幼稚園研修生  
新明 チェリー  
原タイスさおり  
(ブラジル)

### (材料)

(約12個分)  
鶏肉（ムネ）約450g  
出汁をとるための残り物の野菜  
(ニンジン、玉ねぎなど) 適量  
ニンニク 2片  
たまねぎ 小1／2個  
水 鶏肉が浸る程度  
薄力粉 280g  
クリームチーズ 110g  
コリアンダー 適量  
細粒のパン粉 1カップ  
卵 1～2個  
塩・コショウ

### (作り方)

1. 鶏肉と残りものの野菜を鍋に入れ、水を入れて鶏肉に火が通るまで煮ます。
2. 鶏肉は取り出して冷します。煮汁は濾しておきます。
3. 煮汁に水を足して約500ccにし、再び火にかけます。
4. 沸騰したら火を止め、小麦粉を入れ、練ります。
5. 全体がスムーズになったら器に取っておきます。
6. 鶏肉をフォークや手で解していきます。
7. ニンニク、たまねぎをみじん切りにし、フライパンで炒めます。
8. 7に6の鶏肉を入れます。
9. 器にあけ、クリームチーズ、コリアンダーを加えてよく混ぜます。
10. 5の生地をゴルフボール弱のサイズに丸め、手のひらで丸く広げます。
11. 9を少しひとり、10にのせ包み込みます。
12. 涙型に成型します。
13. 卵を溶いておき、12を浸します。
14. パン粉をつけます。
15. 油（170度）で狐色になるまで揚げて出来上がり。  
(中身は火が通っています。油温は色合いを見ながら調節してください)

## 力行会員からの お便り



力行会の皆さん  
お久ぶりです。

(旧) 307号室の会館生、草場マリアナです。

皆さん、お元気でいらっしゃいますか？

IHIにインターンシップへ行ったあと、少しトラブルがあり、力行会へ最後の挨拶をしに行けませんでした。

本当にすみません。

帰国して少し落ち着いた今、このメールを書いています。

力行会の皆さんには本当にお世話になりました。

毎日の会館での生活、力行祭、忘年会、スキー旅行、餅つき、図書館のお話し会、児童館への国紹介など、これ以外にも沢山のことを経験させていただいて、本当に感謝しています。

事務所に寄るたびに皆さんから声をかけていただきて、すごく嬉しかったです。

本当にありがとうございました！

私の現状ですが、1ヶ月以上も大学

を欠席をしていたので、色々な書類や相談を学生課や教授へする毎日です。けれど、なんとか解決できる予兆です。

家族や友人たちと再会し、とても嬉しいですが、やはり日本や、力行会での日常が懐かしく感じられます。

日本にいるときは、ブラジルを懐かしがり、ブラジルにいるときは日本が恋しくなる…、困ったものです。

東京の会社から内定をいただいたので、来年また日本に行く予定です。

その時に力行会へご挨拶をしに行きたいと思っています。

それまでは、ホームページや、フェイスブックで力行会や会館生たちの活躍を見ながら、私も頑張ります！

本当にありがとうございました！

**草場 マリアナ (Mariana Kusaba)**  
- Undergraduate Student  
Department of Industrial Engineering -



### 「日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員」制度についてのお知らせ

個人会員 年額一口 ¥3,000円

法人会員 年額一口 ¥20,000円

《口数の制限はございません。会員期間＝平成28年4月1日～平成29年3月31日》

#### (会員特典)

★各種講演会などの行事のご案内

★機関誌「力行世界」のお届け

★ゲストルームの優待宿泊利用（一泊4,000円を500円引き年間7泊まで）

#### (ご送金方法)

同封の郵便振替用紙をご利用ください。

（口座番号が変更となっております。ご注意下さい!）

### 日本力行会機関紙「力行世界」 定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立119年を迎えました。「日本民族の靈肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理念をさらに発展させ、“世界と日本の架け橋となる人材育成”“海外同胞との連携強化”などの実現を目標に、留学生会館・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎える、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境づくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価格の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資力不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたくお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流にご関心を抱かれている方々への紹介も合わせてお願いいたします。

末筆に成りましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。

敬具

平成28年11月15日発行  
年4回発行(1・4・7・10月号)  
発行  
**(学法)日本力行会**

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikkokai@rikkokai.or.jp

ホームページ

<http://www.rikkokai.or.jp>